

PRESS RELEASE

報道関係各位

2025 年 5 月 12 日

ビーワイディージャパン株式会社

BYD Auto Japan 株式会社

BYD 電気バス「K8」が、4/15 より立山黒部アルペンルートでの運行を開始 最新の BYD SEALION 7 で行く、横浜～立山往復 1,200km の特別ツアーも実施

- BYD の大型電気バス「K8」が 4 月 15 日から、立山黒部アルペンルート内、室堂駅から大観峰駅までの「立山トンネル電気バス」として運行
- 運行初日には、最新のクロスオーバーSUV「BYD SEALION 7」で行く特別見学ツアーも実施
- 立山黒部貫光株式会社では、6 月から立山トンネル電気バス・デビュー記念イベントを実施予定



BYD の商用車部門を担当するビーワイディージャパン株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役副社長：石井 澄人、略称：BJ）から、日本を代表する観光地の一つである立山黒部アルペンルートに納車した BYD の大型電気バス「K8」が、4 月 15 日（火）に「立山トンネル電気バス」として運行を開始しました。また、運行初日には、日本国内で BYD の乗用車部門を担当する BYD Auto Japan 株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：東福寺 厚樹、略称：BAJ）が、同日に発表・発売した同社の国内導入 4 モデル目の電気自動車（以下：EV）「BYD SEALION 7」による特別見学ツアーも実施。

運行初日の 4 月 15 日（火）は、今季の同ルートの開通日ということもあり、富山県側からの出発駅となる立山駅の周辺は、雄大な立山黒部アルペンルートをいち早く観ようとする大勢の国内外の観光客で賑わっていました。

■「K8」が運行する立山黒部アルペンルートとは

立山黒部アルペンルートとは、標高 3,000m級の峰々が連なる北アルプスを貫通する世界有数の山岳観光ルートです。総距離は 37.2km、最大高低差は 1,975mで、その多くの区間が、中部山岳国立公園の中にあります。同ルートは、富山県側の立山駅と長野県側の扇沢駅を玄関口として、電気バスやケーブルカー、ロープウェイなど、さまざまな乗り物を乗り継ぎ、いくつもの景勝地を巡りながら、立山黒部の雲上の大自然を満喫することができます。昨年 2024 年には、国内外から 82 万人超の観光客が同地を訪れました。

BYD の「K8」が走る区間は「室堂駅（標高：2,450m）」から「大観峰駅（同：2,316m）」までの 3.7km。「立山トンネル」と呼ばれるこの区間は、立山黒部アルペンルートでも、とくに立山断層破碎帯と呼ばれる軟弱地盤の掘削など難工事を強いられた場所です。同ルートの歴史は長く、1971 年（昭和 46 年）4 月、立山黒部アルペンルートの全線開業時に先駆け、立山トンネルではディーゼルバスが運行を始めました。その後、観光客の増加にともなうバスの増便をきっかけに、1996 年（平成 8 年）には、クリーンな電気走るトロリーバス（無軌条電車）に切り替えられました。

立山黒部の豊かな自然環境を守りながら、自然由来のエネルギーで走る理想的なエコ・モビリティとして人気を博したトロリーバスは、運行開始から 29 年間、無事故で運行され、これまでに約 2 千万人が利用してきましたが、2024 年 11 月 30 日 15 時発の最終便を以って、多くのファンに惜しまれながら、日本でも最後のトロリーバスとしての役目を終えました。

■立山トンネルを走る BYD 電気バス「K8」

増加する観光客と立山黒部の雄大な大自然への配慮をさらに進めるため、長年活躍したトロリーバスの後継として導入されたのが BYD の大型電気バス「K8」です。BYD の商用車部門は、2024 年の秋に、同ルートを運営する立山黒部観光株式会社に、計 8 台の BYD 大型電気バス「K8」を納入しました。

大型電気バスの「K8」は、輸送需要の多い大都市圏での交通インフラに適した全幅 2.5m、全長 10.5m クラスのボディサイズを持ち、乗降性や車内移動のし易さ（安全性）に有利なフルフラットフロア、効率の良い車室レイアウトを実現するインホイールモーターを採用。駆動用バッテリーには、発火の恐れが無い安心・安全な BYD 独自のリン酸鉄リチウムイオンバッテリーを用いたブレードバッテリーを採用するなど、先進技術が惜しみなく採用され、多くの観光客の快適な移動手段としての役割と、立山黒部の雄大な自然保護の双方を実現しています。

この「K8」が活躍する舞台となる「室堂駅」には富山県側の出発地である「立山駅」から立山ケーブルカーで「美女平駅」まで登り、そこから先は立山高原バスで向かいます。全線開通日から初夏までの期間には、車窓から、切り立った雪の壁（雪の大谷：2025 年開通時の高さ 16m）を眺めることができ、雪の大谷を歩くイベントも実施しています。



■BYD SEALION 7 で訪ねた往復 1,200km の旅

BYD では、今回の運航開始を記念し、同バスを運営する立山黒部貫光株式会社の協力の下、国立公園内で活躍する BYD 大型電気バス「K8」の様子を、BAJ が販売する最新モデルの EV「BYD SEALION 7」で見学する特別ツアーを企画・実施しました。

横浜～立山の往復約 1,200km を優に超えるロングドライブの足となって活躍したのが、BAJ が 4 月 15 日（火）から販売を始めたクロスオーバー SUV「BYD SEALION 7」です。「BYD SEALION 7」には、後輪駆動（RWD）と四輪駆動（AWD）の 2 モデルがあり、一充電走行距離は、それぞれ 540km と 590km を誇ります。距離だけを見れば、出発地の横浜と目的地の立山までの片道 450km（東名～圏央道～中央道～上信越道）を充電無しで走破できる余裕はあったものの、往路は BYD が誇る受電性能の高さを確かめようということで、高速道ならびに一般道に設置された 90kW / 150kW 級の大出力充電体験を行いながら立山を目指しました。



「BYD SEALION 7」は、その基本メカニズムを「BYD SEAL」と共有するものの、いくつかの最新メカニズムへのアップデートが行われています。そのひとつが、バッテリー充電予熱機能で、「BYD SEALION 7」も「BYD SEAL」同様、車両側の受電能力は最大 105kW と大容量を受け付けますが、とくに EV が不得意とされる寒冷地などでの受電能力を最適化するために、あらかじめバッテリーを温めて最高のコンディションにすることで、より優れた受電能力を発揮できるようになりました。

こうした BYD の日々の技術革新により「BYD SEALION 7」では、より快適かつ安心して長距離移動が



可能になりました。

■BYD の電気バス事業について

BYD の電気バスは、2015 年から日本への導入が始まり、今年で 10 周年を迎えました。今では 3 タイプの電気バス（小型：J6、中型：J7、大型：K8）を取り揃え、すべて日本の路線バスに求められる法的要件および基準にすべて合致しています。現在は、国内を走る電気バスの約 8 割を占めるシェアを誇り、北は北海道から南は沖縄までの幅広いエリアを日々、市民の重要な足として走り回っています。BYD 電気バスの大きな特徴は、BYD の最新技術で作られた安心・安全なリン酸鉄リチウムイオンバッテリーを搭載していることに加え、力強いモーターによる発進加速と高い静粛性、さらには、走行中は一切、二酸化炭素を排出しない環境に配慮した、クリーン・モビリティであることです。また、公共交通に欠かすことのできない高い安全性を確保するために、バッテリーを車体後部と天井部分に分散して配置することに加え、後輪を駆動する強力な電気モーターをホイールの内側（インホイール式）に配置しています。これにより、

段差のない低床フロアと後方まで続くフラットな床面を実現。乗降時ならびに車内での移動が安全に行えるようになりました。

BYD の大型電気バス「K8」の詳細は以下の通りです。

【BYD「K8」主要諸元】

項目	内容	項目	内容
車長×車幅×車高	10,500 mm X 2,495 mm X 3,270 mm	航続距離	240km
ホイールベース	5,300 mm	充電方法	CHAdemo
乗車定員	都市型：80 人 / 郊外型：76 人	バッテリー容量	314kWh
車載バッテリー	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー	最大出力	200（100×2） kW

■BYD「K8」の主な特長（BYD ホームページより抜粋：<https://byd.co.jp/products/k8/>）

航続距離
約240km



240kmの航続距離を誇り、長距離の路線バスにも対応します。
※冷房起動時

耐久性に優れた
信頼の品質



ボディはWVTA（統一型式認証制度）に適合。部品点数が少なく、優れた耐久性を実現しています。

コストメリットの高い
優れた経済性



導入コストのほか、ディーゼル車よりも部品点数が少ないため、メンテナンス費用を抑えられるなど、ランニングコスト削減も期待できます。

緊急・災害時も
地域に電気を供給



災害時には電源供給ステーションにもなるほか、被災地に移動して冷暖房完備の避難所としても活躍します。

乗客目線で考えられた
スムーズな加速



インホイールモーターを搭載。プロペラシャフトを介さないダイレクト駆動で、大型ボディを滑らかに加速させます。

誰でも乗降しやすい
低床構造/フルフラット



電気バスならではの広い低床構造に加えて、K8は後部エリアフルフラットを実現し、ノンステップバス認定を取得しています。子どもから高齢者まですべての人が乗り降りしやすい設計になっています。

子どもからシニアまで
静音性の高い乗り心地



急発進を抑制し、静かで揺れの少ない乗り心地を実現しました。乗客や乗務員、地域住民の皆さまに、走行音によるストレスを与えません。

乗客の皆様に心地よい
広々とした車内空間



天井の高い広々とした空間に、ゆとりのあるシートレイアウトを採用しました。
最大で80名の乗車が可能です。（都市型）

■立山トンネル電気バス・デビュー記念イベント

今回、BYD の大型電気バス「K8」を就航させた立山黒部貫光株式会社では、これからの本格シーズンを迎えるにあたり、下記の通り「立山トンネル電気バス・デビュー記念イベント」が催される予定です。

● 電気バス記念カードプレゼント

立山トンネル電気バス（室堂～大観峰）に乗車した方全員に、電気バスの紹介を記した記念カードを贈呈します。

期間：2025 年 6 月 1 日（日）～6 月 30 日（月）

配布場所：室堂・大観峰の改札

● のりものデイズ・夏篇

トロリーバス・電気バスの特別展示および整備士による車両解説を楽しむことができます。

2024 年に運行を終了したトロリーバスと電気バスを室堂ターミナル駐車場に並べて展示します。

室堂では、トロリーバスが見られる最後のチャンスとなります。

来場者特典 : 2024 年に配布していた「トロリーバス・ラストランカード」をプレゼント！

また、期間中は毎日 1 回整備士による車両解説を実施

車両の前で日々の業務や乗り物の魅力について説明

参加料 : 無料（事前予約不要）

期間 : 2025 年 6 月 27 日（金）～7 月 1 日（火）

時間 : 展示時間 10:00～15:00

車両解説 13:00～（15 分程度）

※ 展示会場で開始時間の 15 分前よりご案内を開始

※ 荒天時は中止になる場合があります

場所 : 室堂ターミナル駐車場

その他、立山黒部貫光主催のイベント情報は、下記 URL にあるホームページでご確認ください。

https://www.alpen-route.com/_wp/event/109881

※本リリースの掲載内容は画像を含め、2025 年 5 月 9 日（金）現在の情報です。内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

製品に関するお問い合わせ：

BYD Auto Japan 株式会社 お問い合わせフォーム : <https://byd.co.jp/contact/>